

第25号

SSH  
Super Science High school

緑高 SSH

科学な秋  
紹介号

2026年3月9日



## アカデミックキャラバン（11月6日）

今年度は、東京理科大学の山本貴博氏をお招きし、「科学のメガネをかけると世界は変わる～過去・現代・未来～」というタイトルで講演を行っていただきました。講演では、「ふーは一の法則」といった身近な現象から、「火星の夕焼けは青い」「1円玉2枚の消滅エネルギーで神奈川県を賄える」といった驚きの科学的事実まで、興味深いトピックが次々と紹介されました。特に、「100年前の非常識が今の常識になる」という言葉や、ドラえもんの道具の実現、パラレルワールドと量子コンピュータの関係などは、生徒たちの好奇心を強く刺激しました。また、多くの生徒のコメントから、物理や数学という学問の枠を超え、世界の見方を一変させる貴重な機会となったことがうかがえました。他にも、技術そのもの以上に「他者へのリスペクトと対話」が大切であるというメッセージや、「文系・理系という区別は受験上の便宜に過ぎない」という指摘は、進路に悩む生徒たちに「無関心にならず、楽しんで学ぶ(科楽)」ことの大切さを伝えてくださりました。科学のメガネを通じ、日常を「数式という共通言語」で捉え直すことで、未来を創造する意欲を育む素晴らしい講演となりました。



↑講演終了後、たくさんの生徒から質問を受ける山本先生

## SSH ミニ講座（1月20日）

1月20日(火)放課後『SSH ミニ講座』を本校 PC ルームで実施しました。アカデミックキャラバンで講演いただいた東京理科大学山本教授をお招きし、“アカデミックキャラバンで質問したかったが、時間の都合上叶わなかった”という1,2年生の希望者7人を対象として、「量子の解釈について」「量子エンタングルメントについて」等生徒の質問に回答していただく内容で展開しました。講座内では山本先生から「大学3年生に話している内容だよ」「数学物理部(専門的過ぎて)ヤバいね」等のコメントが出るほど、普段の授業では聞けないような専門的な内容となりました。生徒からは、「書籍から得た上辺だけの知識を理解まで落とし込めたのでとても良い機会になった」「将来取り組みたいと思っていた量子化学や核化学への興味が一層増した」「講義の疑問や感想について時間を気にせず聞けることがとても良かった」などの感想があり、満足した様子でした。



## Grass Roots Innovator Festival in Kanagawa 2025（11月19日）

「緑の探究」の一環としてオンライン開催された成果発表会に参加しました。本発表会の目的は、学外の参加者との意見交換や有識者からの専門的な助言を通じ、自らの研究内容を客観的に見つめ直すことです。当日は、他校の生徒との質疑応答から新たな視点を獲得だけでなく、専門家や他校の校長先生によるフィードバックを受けたことで、論理の飛躍や今後の検証課題が明確化されました。また、参加した2年生チームが「Good discussion 賞」、1年生チームが「神奈川工科大学賞」「Good inquiry 賞」をいただきました。この経験は、生徒にとって探究活動をより深化させる貴重な気づきとなり、非常に良い経験になったと思います。特に他校の生徒と議論を交わす姿は、知的好奇心を刺激され未知の事象に触れ楽しさを感じている様子でした。今後もこうした対外的な発信の場に積極的に参加して探究活動の醍醐味を味わってほしいと思います。

